

「無いものを嘆くよりも、あるものに感謝したい」

1. 左手一本のプロゴルファー

右掲は、小山田雅人という障害者プロゴルファーです。写真でも分かるように、右手は義手なのです。従って、左手一本でスイングするという方なので、私は、8月29日のNHK「アスリートの魂」という番組の再放送で知ったのです。早速、ネットで調べると「プロゴルファーの小山田雅人さんを紹介。幼少期の事故で切断した右手は義手。中学生のときにゴルフを始め、障害者の世界大会では2連覇を達成した。しかしプロになったのは昨年。前職は栃木県庁だった。9年前、脳腫瘍が見つかったことをきっかけに、人生の希望を失いかけたというが、4年前に授かった娘の真姫ちゃんが心の支えになったという。小山田雅人さんは、東京パラリンピックでのゴルフの種目協議入りを願っていた。」と紹介されています。



NHKのHPより

小山田さんは、現在、45才ですが、その人生はチャレンジ精神そのものです。幼い頃は、野球をやり、小学校5年でサッカーも始めて県北代表になり、中学高校は野球部でレギュラーという背景があり、県職員として25年間務めた上で、昨年、プロゴルファーになられたという方です。前述の紹介文にあるように、9年前に脳腫瘍になられて大手術を受け、左側頭葉の7割を摘出されたのですが、タイトルにあるように「無いものを嘆くよりも、あるものに感謝したい」という強い精神でいろんな困難を克服されて、しかも、一流になっておられるのです。

すでに、ティーチング・プロとして活躍されており、障害を克服したという事で講演活動もなさっているのですが、目下のチャレンジはトーナメント・プロとして活躍する事との事です。アマチュアとしては、ハンディ0と言う腕前で、大会でも大活躍されていたのですが、プロ登録して、トーナメントに出場すると彼の打つスピンの量では、固くて早いグリーンでは止まらないのだそうです。トーナメントに出場しているプロは、ボールを打つ瞬間、右手で球をこするように押しついているのだそうですが、彼には、右手が義手なので思うようには動かせないのです。それでも、ならばカット打ちとスライス回転の止まる球にチャレンジされているのです。

2. 「3つの‘不’」

私は、たまたま、土曜日の夕方に再放送を見たのですが、この小山田選手の姿を見て彼の不屈の精神に感服したのです。私は、一応、五体満足な状態であり、仕事も独立して20年が経ち、お蔭様で経営も安定しています。さらに、66才にもなり僅かながら年金も貰えるようになったのです。このような環境になると、人はこの環境が当たり前と錯覚してしまい「ぬるま湯」にどっぷりと浸ってしまうのです。ある方がおっしゃったのですが「哺乳類は満腹になると怠ける」という事なのです。私も例外ではなく、暑いからとか何とかと言って怠け癖がついています。

このように、軟弱な精神の持ち主の私には、小山田さんの生き様は神々しく映りますが、皆様は、如何でしょうか。何か充足している事が当たり前になっていて、いざ、何かをしようとする際に「あれがない」「これがダメ」と出来ない理由を探していないでしょうか。こういう「無いもの」を探し始めると段々と身に染みて、そういう癖が身についてしまうのです。そして、恐ろしいのは、いきなり頭から「あれがない」などと言い出すのです。これでは、非常に困ったこととなります。

「3つの‘不’」(不足・不満・不親切)は、逆転の発想をすれば、ビジネスのチャンスにもなるのですが、そういう精神が消えてしまっているのです。私は、「不足」ではなく、小さなものですが「充足」した状態になっており、その環境で、いつの間にか満足してしまっていたのです。これでは、前向きなエネルギーが消えてしまうと気づいたのです。

3. 「とりあえず」で始める

小山田さんは「無いものを嘆くよりも、あるものに感謝したい」という事で、左手でゴルフを始められて、脳腫瘍で左側頭葉の7割を摘出されても残りの3割があると努力されているのです。しかも、超一流を目指しておられる姿は、誰が見ても神々しいものがあります。私は、この超ポジティブな精神を学びたいと思います。

私自身、66才になって、少し変わって来ています。最近、ある適性検査の販売をする為に応募して、その際、自分で受けてみたのです。多くの項目はよい結果が出ていたのですが、無気力気味という結果が出ていたのです。そう言えば、最近、何事もネガティブな反応が多かったのです。ハッと気づきました。これはイカンと気を引き締め直したのですが、それでは何も変わらないので、とりあえず、何事も一度はポジティブに反応すると決めたのです。

例えば、中小企業家同友会も所属支部の例会に出席するだけであつたのですが、お客様が京都の同友会の支部長をされているので、その支部の昼例会に参加するようにしたのです。この昼例会には、以前から参加していたのですが、会場が火災の被害に遭われて他の場所へ変わったので止めていたのです。まあ、老化現象の始まりなのでしょう、場所が変わるだけで、鬱陶しくなっていたのです。参加すると決めると会場が焼肉チェーン店だったので好奇心も湧いてきたのです。

この一例でも分かるように、新しい事柄に「面白い」と反応するか「鬱陶しい」かの差なのです。私は、若い時から好奇心は旺盛で、いろんな事に前向きだったのですが、最大の苦手があります。それは、営業という事なのです。ある程度、関係性があれば、営業は上手な方ですが、余り関係性のないところへの活動が出来なかったのです。セミナーを開催して受講された方でもアンケートに積極的な回答がなければ、自ら訪問しないタイプなのです。ともかく、「人に会う」という事が課題なのですが、先の昼例会を吉書として、いろんな会合に参加したいと思っています。

4. 不撓不屈の精神

小山田さんの恵まれない環境でも一流のプロ・ゴルファーを目指されている姿に感動する訳ですが、左手一本だけでゴルフの腕前をハンディ0にまで上達し、左側頭葉の7割を摘出されても、さらに、上を目指して、ティーチング・プロからトーナメント・プロを目指されているのです。並大抵のことではありません。トーナメント用のグリーンは固くて止まり難いのですが、トップ・プロは右手で押すように打ってボールに強烈なスピンをかけているのですが、彼は、右手が義手なので、カット打ちで克服するとチャレンジされているのです。

まさに、「不撓不屈」という言葉がぴったりです。どんな事があってもくじけないという事ですが、例えば、営業の方がよく使う言葉に「お客様の購入価格がうちの仕入値より安い」という負け口上があります。これを得意気に言われると腹が立ちます。本当に粘った上での話なのだろうかという疑問すら浮かんで来ます。同じように、「うちは〇〇がない」と言われるケースがあります。〇〇に代替するものがないのかと思います。

「不可能を逆転する」という根性が必要と思っています。「営業は断られてから真の営業」とも言いますが、断られた時に「もう一回チャンスください」と粘っているのかという話です。「3回安定10回固定の原則」がありますが、3回粘ることができれば、大抵のお客様は感動して「指値」で購入して下さるのです。こういう粘りがいつの時代にも通じる「本物」と思います。こういう粘りを自分自身も忘れないようにして、小山田さんに及ばないにしても近づきたいと思っています。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> あります！】